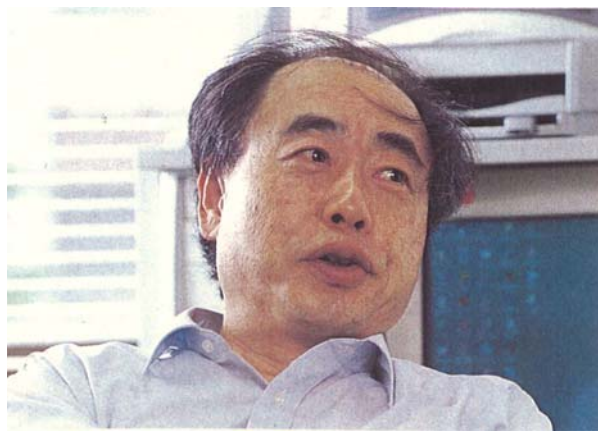


# 総研大ニューズレター

号外 2008.10.9 発行

**小林 誠先生（元本学教授・素粒子原子核専攻長）が  
2008 年ノーベル物理学賞を受賞することが決定しました。**



## ○ 受賞理由

「クォークが自然界に少なくとも三世代以上ある事を予言する、対称性の破れの起源の発見」に対して京都大学名誉教授・京都産業大学理学部教授の益川敏英先生とともにノーベル物理学賞が贈られることになりました。

## ○ 小林誠君のノーベル賞受賞を祝って

池内 了（理事）

ノーベル賞をもらうような著名な人は姓を呼び捨てにする「湯川とか朝永とか」のが普通だが、あえて小林誠君と呼んでしまう。同学年であり、1972年から5年ほど京大の物理教室の助手として同僚であったからだ。小林誠君はもの静かな中に才気を秘めているタイプで、天才肌で口達者な益川敏英氏とは対照的な存在である。だからこそ、小林—益川理論が成就できたのだろう。

実は、私は、今年こそ、この二人にノーベル賞がいくと予想し、周囲にもそのように宣伝していた。これまでの素粒子理論の受賞者の仕事が1971年のものまで来ており、次こそ小林—益川であろうと考えていたためである。

偶然にも、10月3日に某委員会で小林誠君と一緒に、東京駅から逗子駅まで電車で一緒だった。そのとき、私が「今年こそチャンスだ」と言ったら、彼は「もう35年前の仕事だからね」と少し諦め気味であった。私は「そんなことないだろう」と呟いたのだが、今、もの見事に的中したのを見て鼻高々で、小林誠君に「予言した通りだろう」と威張りたい気持ちである。

○ 略 歴

生年月日：昭和 19 年（1944）4 月 7 日（64 歳）

最終学歴：昭和 47 年（1972）3 月 名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了

学 位：昭和 47 年（1972）3 月 理学博士（名古屋大学）

経 歴：昭和 47 年（1972）4 月 京都大学理学部助手  
昭和 54 年（1979）7 月 高エネルギー物理学研究所助教授  
昭和 60 年（1985）8 月 同 教授  
平成 9 年（1997）4 月 高エネルギー加速器研究機構教授  
平成 11 年（1999）4 月 総合研究大学院大学教授  
平成 15 年（2003）4 月 高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所長  
平成 16 年（2004）4 月 同 理事  
平成 18 年（2006）6 月 同 名誉教授  
平成 19 年（2007）10 月 独立行政法人日本学術振興会理事

受 賞 歴：昭和 54 年（1979） 第 25 回仁科記念賞  
昭和 60 年（1985） 日本学士院賞  
昭和 60 年（1985） 米国物理学会 J. J. Sakurai 賞  
平成 7 年（1995） 朝日賞  
平成 7 年（1995） 第 48 回中日文化賞  
平成 13 年（2001） 文化功労賞  
平成 19 年（2007） 欧州物理学会高エネルギー・素粒子物理学賞

**小林誠先生のノーベル物理学賞の受賞を心からお慶び申し上げますと共に  
今後ますますのご活躍をお祈りいたします。**

発行 2008 年 10 月 9 日

編集



国立大学法人  
**総合研究大学院大学**  
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

総務課広報係（担当）

TEL 046-858-1590/FAX 046-858-1542

E-mail: kouhou@ml.soken.ac.jp

©2008 SOKENDAI